

## 学 校

## メリット

- ・学校や家以外での様子について知ることができた
- ・支援の方向性を確認できる機会となった
- ・学校・家庭・放デイが連携できる

## デメリット

- ・書くことや届けることの教員の負担になる
- ・単発なやりとりで継続したやりとりはできていない
- ・質問内容の意図が分からず、学校からの回答欄にどのようなことを書けばよいのか戸惑うことがあった  
(事前に担当者と話すとよい)
- ・情報が遅く、現場についていけない

## 聞きたい内容

- ・放デイでの特徴的な表れ・行動について
- ・声かけや支援の内容
- ・放デイで起こった特に配慮が必要な表れ、出来事、要因、その時の対応方法

## 伝えたい内容

- ・学校での生徒の表れ
- ・生徒の課題、支援と指導の内容や方法

## 受け渡し方法について

- ・学校からの回答を事務室に預けておいたが、しばらく取りに来ないことがあった。生徒が放デイを欠席している場合の受け渡しについて明確になるとよい。
- ・学校からの回答を子どもに持たせたが、放デイから提出されていないと連絡があった。生徒が提出したことを他の生徒が複数名確認していたため、放デイの確認不足と思われる。保護者にも確認する手間となった。

## その他

- ・本校では、何かあると放デイへ直接電話することが多いので、ふくろう連絡便の活用はあまりできなかった。
- ・別の事業所との連携で、保護者を支援するために関係の機関に集まっただき、拡大支援会議を行った。必要に応じて、このような連携の形もあるとよい。
- ・1か所の放デイからしか連絡便は届かなかった。各放デイに連絡便の趣旨が伝わっているのか、疑問が残った。
- ・必要性が分からない。お互いの手間が増えているだけのような気がする。

## 放デイ

## メリット

- ・放デイ利用中の表れを伝えることができた
- ・地域の放デイとして知っていただけきっかけができた
- ・学校とのつながりができた

## デメリット

- ・担任の休職等情報共有ができておらず、後任の先生と関わりにくかった
- ・事業所の内容を一方的に伝えるだけとなっている。学校からの反応がないため、間違いなく届いているのか共有ができていないのかわからない。
- ・教育の側からの情報提供がない

## 聞きたい内容

- ・学校での様子（人間関係・情緒・学習（宿題含む））
- ・進路指導
- ・支援目標とされている内容
- ・困りごと等デリケートな内容については、実際にケース会議など情報共有できる機会が作れるとよい

## 受け渡し方法について

- ・送迎を行っていないため、学校へ届けに行った
- ・家庭を介して受け渡しをおこなった
- ・事業所からは学校へ直接届けているが、学校からの返却は生徒が持ち帰っている。中学生であることと、保護者の了承を得ているため生徒が提出してもいいのではないかと考える。

## その他

- ・生徒を担当する相談支援事業所の関りが少ないことは疑問である。
- ・学校、先生、事業所によって対応の仕方に温度差が出てくると思う。
- ・問題行動が多い児童や聞きたいことが多数ある児童の場合、先生の負担になってしまうのではないと思う。
- ・メリットが感じられないので、手間が増えているだけだと感じた。
- ・連携が必要であると感じているため、放デイに対する理解が進むことを願います。